

荻原雲來著

梵漢對譯

佛教辭典

翻譯名義大集

新文豐出版公司印行

荻原雲來著

梵漢對譯

佛教辭典

翻譯名義大集

中華民國六十五年十月初版

梵漢對譯 佛敎辭典

精裝一冊定價新台幣叁佰元正

版權



所有

著者 荻原雲來

發行人 劉修橋

印刷及發行所 新文豐出版股份有限公司

台北市雙園街九十六號
臺北郵政三六四三信箱
登記證：局版臺業字第○六四九號
郵政劃撥：一〇〇四四二四號
電話：三三一九七五七・三八一八六二四

緒言

翻譯名義大集序引

翻譯名義大集は原語 Mahāvvyutpatti の義譯なり、此の語本來は「大分解、大字源」の義にして、主として佛教聖典の文を分解し、其の中の諸の名目や典語を抄出集成したるが故に斯く名づけられたり。現在の形は梵語、西藏語、漢語、蒙古語の四種對照なるも其の初は梵と西藏兩語の對譯なりしなり。コワレヴスキー (J. Kowalewski) の説に依れば此の本は西曆第九世紀に西來の三藏が西藏にて佛教の語類を諸の佛典中より拔萃し、同世紀の中に西藏の梵語學者に由りて西藏譯加へられたり、漢と蒙古との兩譯は何の年代に加へられしか詳ならず。

此の書は西曆千八百五十六年より翌年に亘りて彼得堡大學所藏の謄本より、二人の佛國東洋學者の巨擘により書寫せられ始めて歐洲に傳はる、即ちエドワルド・フーコー (Édouard Foucaux) は其中の梵語と西藏語とを擔任し、スタニスラス・ジュリヤン (Stanislas Julien) は漢語と蒙古語とを擔任したり、完成の後佛都巴理の國民文庫中に珍藏せらる。其後我國の南條博士先に歐洲に在とき其本の佛教研究に極めて緊要なるを認め、大なる苦辛を嘗め、其本の中梵語と漢譯とを寫し取り我國に持ち還られ、篤學の士門下に集まり競ふて傳寫したり。魯西亞の東洋學者ミナエフ (I. P. Minayeff) は佛教研究に心血を傾注し、多の著作を公刊せしが、西曆一千八百八十七年即ち南條博士歸朝後三年にして「佛教の研究」てふ一冊を公にし、其附録として此の要書及び他二種の佛典梵本を合し、異本を比較考訂して之を公刊し同好の士に頒てり、ミナエフの此の書は發賣せしに非るを以て部數少なく、殆んど書肆に出ることなく、學者其珍本なるを以て、探求すること切なるも容易に得難かりき。縱令之を得たりとするも吾人漢字佛教學者に取りて必要なる漢譯を省略したれば未だ吾人は此にて満足するを得ず、是に於て僕嘗て獨逸に遊びしとき已に彼得堡大學書庫より、フーコー、ジュリヤンの共同書寫せる原本をストラスブルヒ圖書館に借り、此の處に於て書寫せんとするに際し、他の更に重要な研究に著手せし

を以て此の企を抛擲したり。然れども幸に畏友渡邊氏の在ありて該本の梵語、西藏譯、漢譯の三種を書寫し完了せらる、是れ恐くは本邦に一二の珍本ならん。後西曆千九百十年より翌年に亘りて、余等の知人露のミロノフ (N. D. Mironow) 氏はミナエフ氏が同好に頒てる物を再版し、更にミ氏の已に準備せし索引を加へて、彼得堡刊行の佛教叢書 (Bibliotheca Buddhica) の第十三卷として發行せり。

是に於て該本の梵語の部分は殆んど完全なる出版を見且弘く世の學者の需に應ずるを得るに至りしを以て若干嗜好家を満足せしめしと雖ども、奈何せん尙ほ漢譯を闕くを以て、多數佛教學者に取りては望蜀の念禁じ難し。特に佛教の梵語は印度一般の婆羅門文學に知れざる特殊の意義あるもの少なからず、又往々にして梵語字書に見えざる佛教獨得の語あり、此等は純はち古來支那西藏翻譯三藏の譯語に照らさざる可らず。我邦曩に東洋學會なるもの組織せられ、其會報の附録として、第三號に至るまでに此本の初の少部分出版せられしも、會報は忽ち中絶し、今に殆んど十年、杳として消息なし。此の時に際りて雜誌「宗教界」の附録として毎號翻譯名義大集の梵語と漢譯とを連載せんとは渡邊氏の發議なり。僕又年來同本の梵語に對する適譯を譯經三藏特に新譯家の成句中より發見することを努め、多少得る所あり、乃ち氏の發意に基づき愈よ此を實行せり。由て梵語はミナエフの本を原とし、若し誤あらば此を訂正し、漢譯は渡邊氏の寫す所に依り、其妥當を缺く所あるときは僕が搜索して得たる古三藏の文句を以て正し、又は其成譯を出し、尙ほ足らざる所は他日西藏譯其他に依て補はん、爾るときは吾人の希望を達するに庶幾んか。此の本に出せる漢譯は古人譯出の語に取らずして生語を用ゐること少なからず、而して僕が發見せる成語は多からざるを以て悉く生語を訂正するに足らず、法相名目類に於て大部分は訂正するを得たるも、餘の單語類に至りては其典故を搜り出さる分頗る多し、此れ座右の梵本と其の漢譯とを比較して方めて得る所のものなるが故に、梵語佛典閱讀の進歩に隨がひ漸次發見せらるべきものとす。希くは同學の士梵漢佛典披讀の際漢譯語に於て新に得る所あらば投寄の勞を吝しむ勿れ。

本書の目次の現形を見るに、梵番漢三種具備せる部分と、梵語を闕

ける部分とあり、其の是の如くなる所以を考ふれば、次の如く想像せらるべし。今書の本文は一次に悉とく集録せられたるに非ず、其中にて梵語の目次ある分は第一次の集録にして、梵語の目次を闕くものの中、其の目次中に攝せらるべき分は先より存在せしを後人が別出せしやも知れざれども、其の目次中に攝し得べからざる分は其の後に補充せられたり。西藏譯を加へたるは最後の補充の時か或は其より後なり、西藏譯を加ふる時か或は其の已前に最初の大綱目次を細かに分類して各章新なる番號を附せり、是の如くして現存分類の形となれり、故に細かに分類せられたる數章を合して梵語目次中或一章に攝せらるべきこと數しかなり。斯かる大綱目に攝屬すべき細分目次は一段を下して印刷し、以て其の關係を見易からしむ。

又た漢譯は殆んど咸く梵語を譯したるに非して、西藏語を譯したり、譬へば或一義を有せる梵語を、二義を有せる西藏語にて譯したるを覽て、漢譯者は、梵語が其の第一義なるを知らずして、過て第二義を漢譯するが如し、是れ今書は、西藏譯が概して正確にして、漢譯が誤謬多き所以なり。併し所引の文の出處が藏經中に明なる時は、西藏譯に據らずして直に古の成譯を取れり、此の際には出す所の漢譯は間然する所なき善美の物と雖も、之と同時に、現に顯はれたる梵文の意義に止まらずして、連絡せる餘の文句までも引くことあり、此等不當の分は、悉とく記號を附して、以て其の譯の當否を甄別し易からしむ。

原語に星點を加へたるは卷末の注記に於て批議すべきことを示す。譯語を括弧内に收めたるは古來の成譯若しくは其の譯語を隨應に適用したるを示す。尙ほ括弧内の譯語に往々星點を附せるは其の譯は自己の推測にして未だ成譯を發見せざるを示す。

本書の索引もミナエフ氏の製作に依る、同氏索引の原則を考ふるに、單語も成句も苟も本文に一項とせる物は悉く網羅す、成句中の動詞は語根を出す、名詞形容詞類は通常複數にのみ用ふる語の外は單語と成句とに通じて單數の語幹を出す、斯る語にして數次用ゐられある時は、意義を異にせざるかぎりは初の二三を出して後を略す、合成語の成分の中、已に單語として別項に出るものは必しも合成語中について一々此を指示せず。以上はミ氏索引製作の原則なるが如し従つて此の本も

讀者は其の意して用ゐられんことを望む。又た次に佛教の轉訛的梵語にして注記の中に於て其の純梵語を考定したるものは總て本文の語の次に出して括弧内に收む。原本の中、誤字の判然たるものと、否らざるものとあれども、苟も注記中に於て改ため或は改むるを可なりとして現著者が提言せる字は、新に加へて悉とく其字の次に (cor.) の記號を附す、此の字に相當する原本の字は括弧内に收む、既に括弧内に收めたりと雖ども、必しも此を以て直に非なりとするに非ず、(cor.) と記したるも、必しも此を以て是なりとするに非ず、注記の文勢にも顯はれたるが如く、是非ともに未定稿若干あることは爰に特に讀者の注意を乞ふ所なり、又た必しも一定の形に決定するを要せざることも往往にしてあり、書體上の誤謬とも音聲上の轉訛とも見得らるる時、例せば pa と ba と va 三字混用の如き、若くは tra と tta との混同の如き是なり、斯かる時は現著者が暫らく一を取り一を捨てたるものなれば、捨てたる字は其の次に (pos.) と書し、取りたる字即ち改めたる字は其の次に (prob.) と書す。又た書中に、疑はしき字、或は、從來の字典にも文書にも未だ發見せられざる文字も少なからず、此等の半は寫誤より來り、半は轉訛より來るが如し、是の如き總て將來の研究を要する字は字の左方に星點を加へて之を別つ。ミ氏索引中の最も著しき誤謬は、nis-vā (15, 15.) とあるべきを nis-vap に作り、vap (245, 739.) とあるべきを vā に作れる是なり、此の餘改易増補せし部分少なからず、兩書を比較して相違を知らるべし、一々指摘するに遑あらず。

本書は明治四十五年二月より「宗教界」に毎號連載しつつありしが、爾來二年有半の星霜を閲するも未だ計畫の半を完了するに至らず、然るに内外學界の要求は日に切なるものあれば、終に丙午出版社の好意に因り、之を別冊として一時に刊行す。本書出版に著手してより後、新に發見せる古三藏の成譯若干あり、此等は注記中に附録す。又た先に注解せんとし字に星點を付せるも今は其の必要を認めざるか或は其の餘の理由にて注解を省けるものもあり、要するに今回の別冊刊行は宗教界附録より見れば少しく改正する所あり、此れ該雜誌閱覽者に對して諒察を乞ふ所なり。

大正四年初版を發行し、その後久しく絶版のまゝ今日に至りしが、今、誤植を正し、數字を改め、面目を一新して、再びこれを公刊することとせり。

大正十五年四月

萩原雲來

緒 言

翻譯名義大集是原文 Mahāvvyutpatti 的意譯。此語本義為「大分解、大字源」，主要是分解佛教聖典的文字，將其中諸名目與典語抄錄輯成一冊，故有此名。現存者為梵文、藏文、中文、蒙文的四種對照本，其初則為梵文與藏文的對照本。依柯瓦列夫斯基（J. Kowalewski）的說法，此書是西元第九世紀時，西來的三藏在西藏從佛教經典中摘出佛教語類，而後於同一世紀由西藏梵語學者加入藏文譯語而成的，但中文與蒙文的譯語何時加入，則不詳。

此書於西元 1856 年～1857 年，由法國兩位東洋學巨擘從彼得堡大學所藏的抄本中謄寫出來，才傳到歐洲。當時，愛德華·胡柯（Édouard Foucaux）擔任其中的梵文與藏文部分；史塔尼斯拉斯·朱利揚（Stanislas Julien）擔任中文與蒙文部分，謄寫完成後，即將之珍藏於法都巴黎的國民文庫。其後，日本南條博士赴歐時，認為此書對佛教研究極富重要性，乃將其梵文與漢譯部分抄寫下來，帶回日本，於是，日本篤學之士遂集其門下，競相傳抄。俄國東洋學者密那耶夫（I. P. Minayeff）專研佛教，出版許多著作。西元 1887 年，亦即日本南條博士回國後三年，出版了一本名叫「佛教研究」的書。他曾合這本翻譯大集跟其他兩本梵文佛典，比較考訂異本，以之作爲附錄，公諸同好，惟密那耶夫此書非以出售爲主，故所印部數極爲有限，書肆幾乎未有。學者莫不將之視爲珍本，在探研佛教上，此書雖然極重要，却不易入手。縱令得之，若省略我們這些漢字佛教學者所需要的漢譯，吾人亦不能滿足。因而，當我遊學德國時，從史特拉斯堡借得胡柯跟朱利揚從彼得堡大學書庫抄得的原本，有意加以抄寫，但因從事其他更重要的著述，而予擱置。幸而畏友渡邊氏亦在德國，抄完了該書的梵文、藏譯、漢譯部分，這在日本或許是唯一的珍本。後來，從 1910 年到 11 年，我們的朋友俄國的密洛諾夫（N. D. Mironow）重印密那耶夫公諸同好的那本書，更加進密那耶夫已準備就緒的索引，作爲彼得堡出版的佛教叢書（Bibliotheca Buddhica）的第十三卷，公諸於世。

於是，該書的梵文部分遂以完整的面目跟世人相見，且能充分應合學者

們的需要，使若干愛好者得以滿足，但因欠缺漢譯部分，對許多佛教學者來說，望蜀之念仍然難禁。尤其佛教的梵語常有一般婆羅門文學所不知的特殊意義，也常有梵文字典所未見的佛教特殊用語，非對照中國西藏所譯的三藏譯語不可。日本東洋學會曾印出該書的開頭部分，作為該會會報的附錄，但是到第三號以後，該會報突然中斷，迄今已近十年，仍杳無消息。在這當兒，由於渡邊氏的建議，「佛教界」雜誌乃以附錄的形式每一期都連載翻譯名義大集的梵語與漢譯。近年來，我從譯經三藏，尤其是新譯家的成句中探求該書的梵語漢譯是否合宜，頗有斬獲，乃依渡邊氏之意，傾力為之。梵語係以密那耶夫之書為底本，若有誤即訂正之，漢譯則以渡邊氏的抄本為主，若有不妥之處，即以我搜得的古三藏文句訂正，若此文句猶有未足，則待他日以藏譯及其他補之，如此或可約略滿足我們的願望。此書所見的漢譯，不取古人既譯之語，而另創新語之處，不在少數。然而，我所發現的既譯之語為數不多，實不足以訂正新語。法相名目類中，大部分都已訂正。至於其他的單語類，有許多典故無法搜得。不過，若將書中梵語及其漢譯互相比較必有所得。因而，披覽梵語佛典時，若能隨時注意，必有斬獲。有志之士披閱梵漢佛典之際，於漢譯語句若有所獲，希能隨時賜教。

觀本書目次的現有形式，可知有梵藏漢三種皆備者與缺梵語部分者。其所以如此，或許是這樣的：本書的本文非一次集錄，其中有梵語目次的部分是第一次集錄的。缺梵語目次的部分，其中當統攝於目次的，本來已有梵語，後人却將它分出；不當統攝於目次的，則為其後所補充。藏譯是在最後補充時附加上去的。補加藏譯之際或之前可能已細分其最初大綱目次，並附各章新的號碼，如是遂成目前分類的形式，因而常有合細分的數章，統攝為梵語目次中的某一章。這些應統屬於大綱目的細分目次，大多缺梵語，以低一格印刷，以便分辨大綱目與細分目次的關係。

此外，本書漢譯並非全譯自梵語，也有譯自藏語的。一義的梵語譯成藏語時常變成二義，漢譯者往往不知梵語所用是第一義，而將第二義譯成中文。是故，本書藏譯大抵正確，漢譯則多謬誤。若引文出處在藏經中很清楚，便不據藏譯，直取古代的既譯之語。本書底本的漢譯縱使盡善盡美，但偶爾也會出現超過梵語本身意義的多餘語句。這些不妥之處，悉附加記號，以便分辨其譯之當否。

原語加上星點的，在卷末的注記中都一一加以批論。收在括弧內的譯語

大抵是古人的既譯之語。括弧內的譯語也往往加上星點，這是表示此譯乃依據我的推測，尚未發現其古譯的譯語。

本書的索引係錄自密那耶夫所製作的索引。密氏索引的原則是，單語或成句在本文中可作為一項的，全數網羅，成句中的動詞列語根，名詞形容詞之類，除通常只使用複數者外，單語、成句皆用單數語幹。若此語已用過數次，其意未變，則於初出時列出二三次；其後概予省略。合成語的成分，若以單語出現於別項，則未必於合成語中一一加以指明。本書亦依密氏此一原則處理，希讀者注意及之。又，佛教的轉訛梵語在注記中已考定其純粹梵語者，皆置於索引的本文之後，收入括弧中。原本中，有的誤字顯然可辨，有的却難辨清，若在注記中已加改正，或以所收為是，則將改正之字新附上去，而在該字之後註明（cor.）字樣。相當於此字的原本之字則收入括弧中，但未必即以此為非，亦未必以註有（cor.）者為是。如注記之文脈所示，此乃未定稿，希讀者諒解。此外，書體上的誤謬與音韻上的轉訛若有所發現，如 pa ba、va 三字的混用，或 tra 與 tta 的混同等等，著者往往取一捨一，所捨之字皆於該字之後寫明（pos.）；所取之字，亦即所改之字，則於其後註明（prob.）。又，書中尚有不少可疑之字，或者字典、文書中所未見之字。這些字一半來自誤寫，一半來自轉訛。這些字都有待於將來的研究，故於該字左上角加上星點，以資分別。密氏索引中最顯著的誤謬是把應作 nis - vā（15,15）者寫作 nis - vap，將應作 vap（245,739）者寫成 vā。其餘應改應增之處不在少數，比較兩書當可知其差異，在此不遑一一指出。

大正十五年四月

荻原雲來

翻譯名義大集目次

1. 佛名號類 Tathāgatasya paryāya-nāmāni. (如來異名)
2. 如來各名號 Nānā-tathāgata-nāmāni. (種々如來名) 目
3. 佛地 Buddha-bhūmiḥ.
4. 出世五蘊 Asamasamāḥ pañca skandhāḥ. (無等等五蘊) 次
5. 四智 Catvāri jñānāni.
6. 三身 Trikāya-nāmāni. (三身名)
7. 如來十力名號 Daśa tathāgata-balāni. (如來十力)
8. 如來四無所畏 Catvāri tathāgatasya vaiśāradyāni.
9. 十八不共法 Aṣṭādaśāveṇikā buddhadharmāḥ. (十八不共佛法)
10. 如來三十二大悲 Dvātriṃśat tathāgatasya mahākaruṇāḥ.
11. 三不共念 Triṇy āveṇikāni smṛtyupasthāna-nāmāni. (三不共念住名)
12. 四無持 Catvāry āraṅgyāni. (四不護)
13. 四無礙辨 Catasraḥ pratisaṃvidāḥ. (四無礙解)
14. 六神通 Ṣaḍ abhijñā-nāmāni. (六神通名)
15. 神通中所出類 Abhijñā-karmāni. (神通業)
16. 三神變 Triṇi pratihāryāni. (三示導)
17. 大丈夫三十二相 Dvātriṃśan mahāpuruṣa-lakṣaṇāni.
18. 八十種形好 Aśīty anuvyañjanāni. (八十隨好)
19. 如來大德經中所出名 Sūtrāntoddhṛtāni tathāgata-mahātmya-nāmāni. (經中所出如來大德名)
20. 六十種音名號 Ṣaṣṭy-aṅga-svara-nāmāni.
21. 般若經中所出諸禪定名 Prajñāpāramitoddhṛtāni samādhi-nāmāni. (般若波羅蜜中所出等持名)
22. 菩薩惣號 Bodhisattvānām sādharmaṇa-nāmāni. (菩薩共名)
23. 菩薩各名號 Nānā-bodhisattva-nāmāni.
24. 菩薩禪定名號 Bodhisattva-samādhayaḥ. (菩薩等持)

25. 菩薩十二惣持名號 Bodhisattva-dhāraṇyaḥ. (菩薩惣持)
26. 菩薩十力 Bodhisattva-balāni. (菩薩力)
27. 菩薩十自在 Bodhisattva-vaśitāḥ. (菩薩自在)
- 目 28. 菩薩四無所畏 Bodhisattvānām catvāri vaiśāradyāni.
29. 菩薩十八不共法 Aṣṭādaśāveṇika-bodhisattva-dharmāḥ.
- 大 30. 經中所出菩薩功德名號 Bodhisattvānām sūtrānta-nirgatāni kṛnicid
guṇa-nāmāni. (經中所出菩薩功德名)
31. 菩薩十地名 Daśa-bhūmi-nāmāni. (十地名)
32. 念行地名 Adhimukti-caryā-bhūmi-nāmāni. (勝解行地名)
33. 念行地有十法行名號 Daśa dharma-caryāḥ. (十法行)
34. 十到彼岸名號 Daśa pāramitāḥ. (十到彼岸)
35. 四講法 Catvāri saṃgraha-vastūni. (四攝事)
36. 三學 Trīṇi śikṣāni.
37. 十八空 Aṣṭādaśa śūnyatāḥ.
38. 四念處 Catvāri smṛtyupasthānāni. (四念住)
39. 四正勤 Catvāri prahāṇāni. (四斷)
40. 四神足 Catvāra rddhipādāḥ.
41. 五根 Pañcendriyāni.
42. 五力 Pañca balāni.
43. 七覺支 Sapta bodhy-aṅgāni.
44. 八聖道 Āryaṣṭāṅga-mārga-nāmāni. (八聖道支名)
45. 獨覺次第 Pratyekabuddha-pudgalāḥ. (獨覺補特伽羅)
46. 聲聞凡聖次第 Śrāvaka-pudgala-kramāḥ. (聲聞補特伽羅次第)
47. 各聲聞名號 Nānā-śrāvaka-nāmāni.
48. 聲聞功德名號 Śrāvaka-guṇāḥ. (聲聞功德)
49. 十二頭陀行 Dvādaśa dhūta-guṇāḥ. (十二頭陀功德)
50. 聲聞地名號 Śrāvaka-bhūmayāḥ. (聲聞地)
51. 六念法名號 Ṣaḍ anusmṛtayaḥ. (六隨念)
52. 九想觀 Aśubha-bhāvanāḥ. (不淨觀)

53. 氣息遊行吸氣次第 *Ānāpānabhāvanā-vidhiḥ*. (入出息觀次第)
54. 四聖諦分別十六名目 *Śoḍaśabhir ākārair visaritāni catvāry ārya-satyāni*. (十六行相所開四聖諦)
55. 四加行 *Nirvedha-bhāga-kramah*. (決擇分次第) 目
56. 十六心見諦 *Śoḍaśa citta-kṣaṇāḥ*. (十六心剎那)
57. 十智 *Daśa jñānāni*. 次
58. 四通名數 *Catasraḥ pratipadaḥ*. (四行)
59. 諸乘及根次第 *Yāna-kramah*. (乘次第)
60. 次第根名目 *Indriya-vaimātratā*. (根差別)
61. 五種乘性 *Pañca gotrāḥ*. (五種姓)
62. 妙法名數 (十二部經) *Dvādaśāṅga-dharma-pravacanam*. (十二分教)
63. 法次第名目 *Dharma-paryāyāḥ*. (法異名)
64. 法輪名目
65. 一切經名
66. 親說品類名目 *Kaṇthokta-kārikādinām nāmāni*. (直說解釋類名目)
67. 四靜慮名目 *Catvāri dhyānāni*. (四靜慮)
68. 入觀名目 *Samāpatti-nāmāni*. (等至名目)
69. 四無量心 *Catvāry apramāṇāni*. (四無量)
70. 八解脫 *Aṣṭau vimokṣāḥ*.
71. 八勝處 *Aṣṭāv abhibhū-āyatanāni*.
72. 十徧處 *Daśa Kṛtsnāyatanāni*.
73. 三解脫 *Trīṇi vimokṣa-mukhāni*. (三解脫門)
74. 四依法名目 *Catvāri pratiśaraṇāni*. (四依)
75. 三慧名目 *Trividhā prajñā*. (三慧)
76. 五明 *Pañca vidyā-sthānāni*. (五明處)
77. 四人果報 *Catvāri dharma-samādānāni*. (四法受)
78. 七聖財 *Sapta dhanaṇi*. (七財)
79. 六無上 *Saḍ anuttaryāni*.

80. 四攝利益 Catvāry adhiṣṭhānāni. (四處)
81. 先喜九種法 Nava prāmodya-pūrvakā dharmāḥ.
82. 應起六心 Ṣaḍ nihsaraṇīya-dhātavaḥ. (六應出離界)
83. 人天四輪 Catvāri deva-manuṣyāṇām cakrāṇi.
- 目 84. 苦行持戒等名目 Tāpa-saṃvara-paryāyāḥ. (苦行律儀異名)
85. 修行及修習枝葉 Yogāṅgāni. (觀行支)
- 大 86. 四 答 Catvāri vyākaraṇāni. (四記問)
87. 三種法相(三性) Triṇi lakṣaṇāni. (三相)
88. 佛四種意 Catvāro 'bhiprāyāḥ. (四意趣)
89. 四種作意 Catvāro 'bhisamdhayaḥ. (四祕密)
90. 寂止餘觀名 Śamatha-vipaśyanāni. (止觀)
91. 十惡業名目 Daśakuśalāni. (十不善)
92. 十善道名目 Daśa kuśalāni. (十善)
93. 造福根由名目 Puṇyakriyā-vastūni. (福業事)
94. 真諦名目(真如 Paramārtha-paryāyāḥ. (勝義異名)
異名)
95. 四涅槃等名目 Nirvāṇa-paryāyāḥ. (涅槃異名)
96. 諸救護名目 Śaraṇa-paryāyāḥ.
97. 諸供奉名目 Mānanā-paryāyāḥ.
98. 喜勤等名目 Utsūdhi-paryāyāḥ.
99. 不避名目 Abhaya-paryāyāḥ. (不畏名目)
100. 五 蘊 Pañcopādāna-skandhāḥ. (五取蘊)
101. 色想各別分別名 Catvāri mahābhūtāni. (四大種・此項に所造
の色をも含む)
102. 各分析受蘊名
103. 分別想蘊名目
104. 分別行蘊具想無 (心相應行心不相應行名)
想無具想總名目
105. 諸識名目
106. 十二入名目 Dvādaśāyatanāni. (十二處)
107. 十八界 Aṣṭādaśa dhātavaḥ.

108. 二十根 *Dvāviṃśatindriyāṇi.*
109. 蘊界入根演說內 *Skandha-dhātṽ-āyatanendriyāntargatāni*
現生集聚名目 *padāntarāṇi.* (蘊界處根所攝(上所出)餘名目)
110. 貪欲類名目
111. 三苦名目 *Traya-duḥkhatā.* (三苦性) 目
112. 八苦惱 *Punar aṣṭau duḥkhatāḥ.* (亦八苦性)
113. 十二因緣 *Dvādaśāṅgaḥ pratityasamutpādaḥ.* (十二支緣起) 次
114. 六因 *Ṣaḍ hetavaḥ.*
115. 四緣 *Catvāraḥ pratyayāḥ.*
116. 五果 *Pañca phalāni.*
117. 四生 *Catvāro yonayaḥ.*
118. 四食 *Catvāra āhārāḥ.*
119. 九地 *Nava sattvāvāsāḥ.* (九有情居)
120. 八難 *Aṣṭāv akṣaṇāḥ.* (八無暇)
121. 諸行等名目 *Tri-kārmakārāṇi (?)*
122. 五無間 *Pañcānantaryāṇi.*
123. 近五無間 *Pañcānantarya-sahagatāni.* (五無間同類)
124. 五濁 *Pañca kaṣāyāḥ.*
125. 世間八風 *Aṣṭau loka-dharmāḥ.* (八世法)
126. 諸功德名目 *Nānā-guṇa-nāmāni.*
127. 諸過失名目
128. 無上最勝衆數名 *Anuttara-paryāyāḥ.* (無上異名)
目
129. 清淨解脫等名目 *Pariśuddha-paryāyāḥ.* (清淨異名)
130. 棄捨等名目 *Nisrjā-paryāyāḥ.*
131. 譽毀稱名數目 *Kīrti-praśamsā-paryāyāḥ.* (稱讚異名)
132. 譏毀類名目 *Nindanā-paryāyāḥ.*
133. 順不順等名目 *Anukūlapratikūlādayaḥ.* (順不順等)
134. 大小高低等名目 *Bṛhat-parittādayaḥ.* (廣少等)
135. 親友次第及侵犯等名 *Mitrakāryam.* (親友所作)

136. 同 上 Amitrakarma. (怨敵所作)
137. 善與吉祥等名 Kuśala-vartaḥ. (善行)
138. 說法聽法言聲名目 Dharma-deśanā-śravaṇādi-nāmāni. (說法聽法等名)
- 目 139. 諸幻術譬語名目 Māyādayaḥ. (幻等)
140. 捨供施等名目 Tyāgādayaḥ. (捨等)
- 次 141. 利濟等名目
142. 慧與分別等名目
143. 諸能人數等名目 Paṇḍita-paryāya-nāmāni (智者異名)
144. 甚深數名目
145. 諸喜名目 Nandi-paryāyāḥ.
146. 諸忿怒及作害 Krodhakāraḥ.
147. 四種死生名 Catvāraḥ pudgalāḥ. (四種補特伽羅)
148. 今生後生及死名目 Iha-paratrākarāṇi (?).
149. 諸寂靜等名目 Vivekādayaḥ. (寂靜等)
150. 四居住等名目 Sthāna-nāmāni. (居住名)
151. 諸地動等名目 Bhūmi-kampi-kāraḥ. (地動)
152. 光燄名目 Prabhā-paryāyāḥ.
153. 大小千界名目 Loka-dhātavaḥ. (世界)
154. 四州名 Catvāro dvīpāḥ. (四州)
155. 三界次第名
156. 欲界天名
157. 初禪地名
158. 二禪地名
159. 三禪地名
160. 四禪地名
161. 淨梵地名
162. 無色界地名
163. 世間天神名 Laukika-devatāḥ. (世間天神)
164. 九曜名 Nava-grahāḥ. (九曜)

165. 二十八宿 *Aṣṭāviṃśati-nakṣatrāṇi.*
166. 天龍等名
167. 龍名 *Nāga-rāja-nāmāni.* (龍王名)
168. 多龍名
169. 藥叉主名目 *Yakṣāḥ.* (藥叉)
170. 乾闥婆主名目 *Gandharvā-yathā.* (健闥縛)
171. 阿修羅主名目 *Asurā yathā.* (阿蘇羅)
172. 大鵬主名目 *Garuḍendra-nāmāni.* (揭樓羅主名)
173. 緊那羅主名目 *Kimnarā yathā.* (緊那羅)
174. 摩睺羅伽主名目 *Mahoraga-nāmāni.* (摩睺羅伽名)
175. 鳩槃荼主名目
176. 大仙名目 *Maha-rṣayaḥ.* (大仙)
177. 古師名目 *Pūrva upādhyāyāḥ* (古師)
178. 具希有等名目 *Tirthikāḥ.* (外道師)
179. 外道六師 *Ṣaṭśāstārāḥ.* (六師)
180. 轉輪王名目 *Cakravarti-rājānaḥ.* (轉輪王)
181. 轉輪王功德七寶等 *Cakravartināṃ sapta ratnāni guṇa-kramah.* (轉輪王七寶德次第)
182. 全千子名目 *Sātireka-putra-sāhāsrāṇāṃ guṇa-paddhatih.* (最勝千子德類)
183. 四種兵衆名目 *Catur-aṅga-bala-kāyaḥ.* (四支軍衆)
184. 多王名目 *Pradeśa-rāja-nāmāni.* (各地王名)
185. 班陀波等雜名
186. 人次第名 *Manuṣya-kramah.* (人次第)
187. 諸種人名 *Catvāro varṇāḥ.* (四姓)
188. 父母親屬等名目
189. 身支等名目 *Śarirāṅga-pratyangāni.* (身支節)
190. 結胎五位
191. 氣血盛衰次第
192. 老病等名目
193. 方隅名目 (地方名目)